

就任あいさつ



副センター長

おおば じゅんいち

大場 淳一

7月1日付で副センター長(外科系)に就任いたしました。22年間勤務した前任地の市立旭川病院胸部外科では、新生児から超高齢者まであらゆる年齢層の心臓手術を手掛けておりましたが、当センターのような小児専門病院に勤務するのは初めてです。

当センターは小児に特化した道内唯一の施設です。また医療と療育の両方を同じ施設、同じ組織で運営するという全国的にもユニークな施設です。急性期医療と慢性期医療とがスムーズかつ緊密に連携できるのみならず、保健・医療・福祉が有機的総合的に機能しています。出生前の胎児期から成人に至るまで一貫した医療・療育を提供できる数少ない施設です。

着任してみると、各診療科の医師同士のみならず看護部、メディカルスタッフ、医療部門と療育部門間のコミュニケーションがきわめて良いことにすぐに気が

付きました。また、お子さんやご家族が安心して治療を受け療育できる環境が整えられていることにも感心しました。院内のアメニティも充実していますし、全道各地からおいでになるご家族のための滞在施設 Donald・MacDonald・House さっぽろも建てられています。何よりもお子さんの疾患を治療し、障害を軽減して健全な発育を目指すという強い意志を持ったスタッフが、ご家族とともにチームとして診療にあたるという姿勢を目の当たりにして、当センターの理念が実践されていると感じました。

同時に当センターは北海道における小児医療・療育の中心的存在です。病気や悩みを抱えているお子さんに高度かつ良質な医療・療育を提供する施設であることはもちろん、次の世代の医療従事者を育てるという使命もあります。医学生や看護学生、若い研修医やナース、理学療法士さんらメディカルスタッフとそれを目指す学生さんにとってよい研修、修練の場を提供しています。とりわけ私のミッションは将来の小児循環器医療を担う心臓外科専門医を育成することと認識しています。

北海道の将来の子どもたちのためにもご家族の皆様のご理解とご協力、ご支援を賜りたく存じます。

開催しました

夏祭り花火大会

7月22日(金)に、札幌手稲養護学校のグラウンドにおいて、「夏祭り花火大会」がひらかれました。このイベントは、毎年、こどもっくろが主催し、札幌手稲養護学校の協力を得て実施しています。利用者に加え、たくさんの地域の子供たちが集まり、大人からも「毎年、このお祭りを楽しみにしている」との声もいただいています。

会場中央には櫓(やぐら)が設置され、和太鼓が鳴り響くなか、参加者は盆踊りに興じました。子ども達には、おたのしみ袋として、おやつが振る舞われます。

圧巻なのは、リハビリテーション課のスタッフが工夫を凝らす、花火ショーです。絶妙な連携より点火される噴水花火が、金山の夜を彩りました。



そけい

鼠径ヘルニアって知っていますか？



第一外科部長

ぬい あきひろ

縫 明大

私たち小児外科で手術する病気でいちばん多いのが、この鼠径ヘルニアです。

男の子なら足の付け根の内側から陰嚢にかけて、女の子なら同じく足の付け根の内側から陰唇にかけて腫れる病気です。この足の付け根の部位を鼠径部と言うのですが、腫れると言っても、痛みなどの症状がなく、腫れたりもとに戻ったりを繰り返すことが多いです。これはおなかには腹腔という腸などの内臓が入っている部屋がありますが、その壁をつくっている腹膜という薄い膜が鼠径部や陰嚢、陰唇につながっていることが原因で起きます。胎児のうちにはだれでも腹膜がこのように鼠径部のほうにつながっているのですが、生まれる前にはこのつながりがなくなります。鼠径ヘルニアのお子さんは生まれたあともこのつながりが残っているのです。ですから、強く泣いたり、踏ん張ったりしておなかに力が入ると腸が腹腔から鼠径部の方に顔を出し、腫れるのです。腸が腹腔にもどると腫れはもとに戻ります。鼠径ヘルニアは診断がついた場合には手術を勧めます。無症状のことが

多いので、本当に手術が必要かと思われることもあるかと思いますが、鼠径部に顔を出した腸が戻らずに絞められて、血のめぐりが悪くなり壊死してしまう、嵌頓（かんとん）ヘルニアとなる危険があります。頻度は低いのですが、万が一これが起こると腸の一部を切除しなくてはならなくなることがあるのです。ですから、手術を勧めるのです。

この腹腔から鼠径部の方につながった腹膜を結紮（けっさつ）して閉鎖し、腸が顔を出さないようにしてあげるのがこの手術です。鼠径部を2cm程度切開して行うやり方と腹腔鏡とってお臍から細いカメラを腹腔に入れてする腹腔鏡下の手術があります。腹腔鏡下の手術は最近出てきた手術ですが、傷がほぼお臍だけで済むこととおなかの中（腹腔内）を観察できることが大きなメリットです。

私たちもこの腹腔鏡下の手術を取り入れて現在行っております。また、これまでは手術前日入院、手術、手術翌日退院の2泊3日で行ってききましたが、本年8月より日帰りでの手術を始めています。

お話ししたようなお子様の「足の付け根の腫れ」が気になる方は当センター外来までお気軽にご相談下さい。

（尚、術式選択や日帰り手術が可能かどうかは診察させていただいた上で決定します。）

花だより



センターへ来られる患者さんやご家族を玄関前でお迎えしていた、札幌稲穂高等支援学校の学生さんたちが育ててくれたお花もそろそろ見納めでしょうか。北海道の夏はあっという間ですが、また来年、きれいな姿を見せて欲しいですね(^^)

センター山側にある栗の木にも秋の気配。

まだ青い実が多いようですが、少しずつ茶色に色づいてきています。小さな動物たちが食べ頃をうかがっている頃でしょうか？今のところまだ柔らかそうですが、さわると意外と痛いのでお気を付けて！

